

岐阜市を過ぎやすく優しい街に

市政報告

夏号

REPORT

1

本年度中に市内40ヵ所の交差点を対象に防護柵設置などの安全対策を実施

5月の大津市の事故を受け、さらに安全対策を強化。

大津市で5月8日に起きた、散歩中の保育園児らの列に車が突っ込み、園児2人が死亡した事故を受けて、岐阜市は本年度、市内交差点40ヵ所、総延長は約400メートルの範囲で防護柵を設置するなど、安全対策を実施することを決定しました。

岐阜市基盤整備部は大津市の事故後、市が管理している道路の交差点のうち、

- ・岐阜県内交通事故多発交差点ワースト100に該当する交差点
- ・1日1万台以上の自動車が通行する道路の交差点
- ・小学校から半径500メートル内の比較的交通量が多い通学路等の交差点



▲ 市橋小学校前交差点



▲ 市橋4丁目交差点

以上について、歩車道境界ブロックの状況や防護柵の設置状況を調査点検し、40ヵ所の交差点を選定しました。

防護柵に関しては、平成26年度以降の新設幹線道路には設置されているため、今回の調査では、それ以前に整備された道路の交差点を対象に、防護柵の設置スペースや交通量の状況を調査しました。

また、市ではこれまでに「ゆとり・やすらぎ道空間事業」などの実施や、本年度からは、市が掲げる「こどもファースト」の推進により、防護柵の設置や横断歩道の待ち場の整備などを行う「通学路安全対策事業」を新

規事業で進めているところでした。

新たな防護柵設置などの安全対策は、現在、工事発注の準備を進めており、順次、工事が実施されます。これにより、子どもたちのさらなる安全・安心の確保につなげていきます。

REPORT

2

不登校特例校を新設し 2021年4月の開校を予定しています

旧徹明小学校舎を活用し、不登校の中学生を受け入れる「不登校特例校」を新設します。



旧徹明小学校舎

2017年3月に閉校した旧徹明小学校舎（岐阜市金宝町）の活用に関して検討がされてきましたが、この度、岐阜市教育委員会が6月、不登校の中学生を受け入れる特別な教育課程を編成した「不登校特例校」を新設すると発表しました。

不登校児童生徒の増加は全国的にも解決が急務な課題ではありますが、岐阜市も同様で、特に中学生の不登校生徒の多さと増加傾向が課題となっています。現在は学校とエールぎふ（岐阜市子ども・若者総合支援センター）が連携し、不登校児童生徒の支援をしています。

不登校特例校は学校教育法施行規則に基づいた、不登校の児童生徒を対象に教育を実施する学校となるため、少人数指導や特色ある教育、個に応じた学習・体験が可能になります。岐阜市立中学校として全校生徒40名程度を検討しており、在籍校に通えない生徒の選択肢の一つとなります。

不登校特例校は、全国で公立私立の小中併設校や中学、高校の12校が指定されています。県内では私立西濃学園中学校（揖斐郡揖斐川町）に続き2校目で、公立校としては東海地域では初となります。岐阜市では本年度中に文部科学相から特例校の指定を受けたいと考えています。

不登校児童生徒

平成24年度	425人	(小学生105人、中学生320人)
平成28年度	559人	(小学生159人、中学生400人)

不登校特例校

不登校生徒(中学生)にとっての学びの場、居場所の一つに。
旧徹明小学校舎に集う多世代とのひびきあいを大切にした新たな場に。

REPORT

3

安全で安心して通行できる 人にやさしい道づくりを目指します

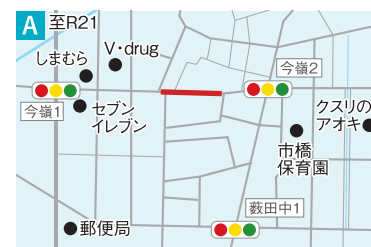
市橋鏡島地区の「ゆとり・やすらぎ道空間整備事業」が行われています。

岐阜市内の加納西地区、京町・明德地区、長良西地区、市橋地区、徹明地区の5地区は、交通安全上特に危険な地区として警察庁から「あんしん歩行エリア」の指定を受けています。この事業では、“車”優先の道路から“人”優先の道路への転換を行うことで、歩行者や自転車利用者等の安全性を向上させることを目指しています。

市橋地区では平成26年に行った地域の小学生、中学生、高校生からのアンケート調査結果に基づき、平成26年度から、市橋鏡島地区の地域の皆様を中心となって調査事業が始まり、9の路線と路線内の交差点が危険な場所として抽出されました。抽出した箇所を対象に、路側帯の着色、交差点の着色、歩道を設置して歩行者の通行空間を確保するなど整備計画が策定されています。

そして、今年度の予算で、**A**市橋地区の今嶺公民館南の東西道路の一部区間と、**B**鏡島地区のグリーンピア安江西の南北道路の一部区間に、歩道の設置など道路整備が行われることになりました。

…道路整備が行われる区間



<整備イメージ例>



▲ 整備前



▲ 整備後

